

西條正幸の
エコライフのすすめ



『モミの精油』

北海道の代表的な木のひとつ、トドマツ。一般的には蝦夷松、蝦夷赤松などと混合されて「エソトド」として住宅の主用材などに使われているのだが、実はトドマツはモミの木の仲間だったのだ。

北海道で初めてのFSC認証の森を管理する下川町森林組合では、枝打ちしたトドマツの枝葉を蒸留し、森の香りがいっぱい詰まった、ピュアな「モミの精油」をつくっている。

トドマツの精油成分は殺菌効果があり、喘息や風邪の症状を和らげる効果や、精神安定効果があるといわれている。独特のフィトンチットの香りが森林浴効果の源で、リラックスした気分になり、癒し効果抜群。ゆっくり蒸しあげた蒸気を冷やして出来た蒸留液の油分だけが、エッセンシャルオイルになる。残った水分はフローラルウォーターになり、香りのミストや入浴水として利用されているのだ。

さらに残った葉っぱまで、陰干しされてからフローラルピロー（枕）として生まれ変わるのだから驚きだ。余すことなく素材を使う、エコなモミの木グッズは、ローハス層にも大うけ間違いなし。僕は、お手製の「みつばちクリーム（蜜蝋と植物油を合わせたもの）」にモミの精油を入れて使っていて、いつでも手軽にリフレッシュできるので、とってもGOOD！

北海道ならではの、自慢できるおすすめの一品である。

モミの精油は下記
<http://www.shimokawa.ne.jp/shinrin/index.html>

一級建築士事務所
自然素材で新築・リフォーム
エコロジー建築工房

有限会社 西條インテリアデザイン

<http://www.saijo-d.com>

本社 / 札幌市北区百合が原4丁目8の1 (百合が原公園向かい)
TEL 011-774-8599 E-mail:eco@saijo-d.com
伊達支店 / 伊達市舟岡町 50-28
TEL 0142-22-0138 E-mail:bau@saijo-d.com



題だと思っ。価値観は人それぞれ、とはいえ20〜30年で飽きられてしまう、チープな家をつくってはいないだろうか？ 新しい住宅地を通ると、統一感の無い建物が建ち並ぶ風景がどどん広がりしていることに、寂しさを感じる。歴史的建築物に価値があるのは、ただ古いだけの建物ではない、当時の文化を反映していることはもちろんだが、使っている材質や工法が本物だからだ。では、今建てられている住宅の中で、どれだけの家が本物といえるだろうか？ 見た目の綺麗さや利便性にとらわれたビニールや合成製品で建てた家が、50年後に価値が認められるとは思えないのだ。みなさんは自分の住まいの価値を、考えたことがあるだろうか。ちょっと見方を変えてみると面白いと思っ。

自然素材はビンテージ
日本の家は木の家。伝統的木造建築の木組みの美しさは、時代と共に変化しながらも、有機的価値を保っている。美しい木の顔がちゃんと見える家をつくることは、20〜30年経った後にも、住まいへの愛着と共に物理的価値を残すことになる。それは無機質のコンクリートやビニールや合成製品ではありえないことで、自然の風合いを感じる素材がなせるわざだ。
古民家の古い柱や梁・床板・建具などが取り引きされる時代。それ自体が良いかどうかは別として、レトロな住まいの素材に、ビンテージとしての価値を見いだせる。構造材は集成材が主流になりつつあるが、やはりポリウレタンのある太い無垢の木でなければ、古材としての価値は無い。建具や家具も同じように、ビニ

ールや合板で出来ているものには、アンティークとしての価値は無い。内装材もビニールクロスやビニールフロアーよりは、自然素材で出来た家に分がある。
逆に考えると、骨太の木組みを意匠として現し、ビニールや合板に頼らず無垢の木と自然素材で建てた住まいは、今後の中古住宅市場においても、十分な価値を満たすことができるのではないだろうか。
そんな家ならば、仮に20年後に住み替えのため家を手放さなければならなくなったときにも、まず持ち主が手放したくないと思っ哀愁と共に、新たな住み手が壊すのが惜しいと思えるような本物の家になるはずだ。これこそが、僕たちが目指す木の家の姿でもあるのだ。



エコショップ 素材自店

札幌市北区百合が原4丁目8-1
(JR学園都市線「百合が原」駅 徒歩5分)
TEL 011-774-8599 FAX 011-774-8581
<営業時間>AM10:00~PM6:00
祝・日曜休み

オーガニック空間を実現するための厳選エコ素材ショップ。西條インテリアデザイン併設。素材の購入だけでも良いですが、新築、リフォーム相談の場合はご予約ください。

ecology

新の 素材自店 32

価値がほとんど認められていない、日本の中古住宅。でも、それでいいのでしょうか？
本物の素材、きちんとした方法で蘇生させれば、20年、30年後も価値をつないでいける。そんな住宅改修がこれからの時代に求められています。

自然素材で
リノベーション



脱スクラップ&ビルド

中古住宅や中古マンションなど既存の建物を蘇生するリノベーション。新たなコンセプトのもとで、今あるものを活かしながら、理想の住まいのために新しい価値を与える。修繕や模様替えといった軽微な改修というよりは、大規模な改修が前提で、ライフスタイルに合わせた快適な住まいの空間を、住み手に合わせて具体的に提案するのだ。ただ、中古住宅の骨組みを残し、断熱・気密・耐震・設備配管まで手を入れるとなると、新築住宅の2〜3割減程度の建築コストは覚悟しなければならぬ。
木造住宅の耐用年数を、使っている木の歳だけ活かすと考えるならば、最低50年は使いたいのものだ。しかし残念ながら現状は、20年以上経過した中古住宅のほとんどが解体されてしまう「スクラップ&ビルド」が主流となっている。

住まいの価値を見直す

ドイツでは、手入れが行き届いてしっかり管理された住宅は、20年以上経過しても不動産価値がある。そのため、ある程度、初期投資が高くなっても、エコロジカルな住まいづくりにコストを割くことができるようだ。
日本では現在、建てられている住宅のほとんどが、50年以上の耐久性があるといわれているにもかかわらず、不動産価値の見直しはされていない。ここが、これからの大きな課

これは、中古住宅は不動産価値を無くしているため、解体して更地にし、制約を受けずに新築したほうが良いという考え方が、住み手にも作り手にも浸透しているからだと思っ。しかし今後は、サステイナブル（持続可能）な住まい方が求められるようになり、リノベーションの需要は増えていくことが予想される。



西條正幸
Masayuki Saijo

エコロジー空間デザイナー。人と環境にやさしいエコロジー建築をテーマに店舗、住宅の新築、リフォームの設計・施工、エコロジー建材のコーディネートなどに当たっている。一級建築士事務所(有)西條インテリアデザイン代表取締役。エコショップ「素材自店」店主。